

令和5年度家庭教育支援専門研修会 開催報告

日時 令和5年9月14日(木)13:30~16:30

会場 滋賀県庁東館7階大会議室

参加人数 103名(会場37名、オンライン66名)



内容 ○実践事例発表:「中央中学区 朝ごはんプロジェクトの取組から」
発表者:松田 暁郎 氏(彦根市立中央中学校 教頭)

○講演:「つながりにくい親子に 光を届ける」
～支援者の心得・関わり方・支援の拡げ方【相談援助編】～
講師:上村 文子 氏(滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー)

○グループ別協議:「支援が届きにくい家庭への効果的な対応について」
ファシリテーター:西村 喜久子 氏(滋賀県スクールソーシャルワーカー)



【参加者の感想より】

- 中央中学区朝ごはんプロジェクトの取組は、モデルとしても大変素晴らしい。地域と学校とが情報共有し、支援が広がっていた。それぞれの立場でできること、できないことをカバーし合って、支援の輪をつくり続けていると思った。
- 地域の集会所で集う取組や、届ける取組等、私たちの子どもの居場所づくりに希望を持たせていただき、感動しました。手本にさせていただきます。
- 地域を巻き込んでよい循環が生まれている例を知ることができました。大人も子どももお互いに頼ったり頼られたりする関係があることで、良い社会につながるのであれば、自分も関わっていきたくと思いました。
- 上村先生のお話では、自分も労ってもらったようで、プラスの言葉をたくさんいただきました。私も人を労ったり励ましたりできる言葉をうまくかけていきたくです。
- 保護者の視点を変える声かけをしてあげることで、子どもが変わっていくと信じて、ケースワークしていきたいです。短いストロークで心配してるよと伝えてあげて、じんわりゆっくり効くようにつながっていきたくです。
- 子どもやその保護者との関わり方(声のかけ方、話の聴き方、心構え等)を具体的に教えていただけに役に立った。相談に至ることすらできない方々にこそ支援が必要であり、様々な機関の連携が必要であるとわかった。
- 自校の様々な家庭を思い浮かべながら話を聞かせていただきました。特に、家庭全体をケアの対象としてみる視点で、親子ごと育てていくことを大事にしていきたいです。具体的な事例をもとに考えることで、チームで対応する重要性を確認することができました。
- いろいろな立場の方と交流ができ、改めて、ケースに合わせて関係機関等と連携していくことの大切さを感じました。本校は、学校運営協議会も熱心に活動してくださっているので、地域資源も活かしていけるよう、コーディネートしていきたいと思いました。
- 様々な事例を通して、本校における支援の必要な子どもや家庭について、改めて考える機会となった。その中で、指導やアドバイスをするだけでなく、その子どもや家庭の良さや強みを見つけ、上手くいっているところを広げていくための支援が必要であると感じた。結果だけに注目するのではなく、そこにいたるプロセスにも目を向け、安心できる声かけを心がけて寄り添っていきたく。
- 子どもや保護者について、社会福祉、児童福祉の視点から考えさせていただきました。保護者が安心して子育てできる支援体制の仕組みづくりが大切であると再認識できました。社会が複雑化、多様化し、環境が大きく変化する中で、子どもたちの健やかな成長を図るためには、学校、家庭、地域社会がこれまで以上に連携、協働することが求められていると思いました。

